

希望 思い出



古い校舎には数々の思い出が (大総小)

「行い」を良くしなさい。学問もだいたいだがそれ以上に大切な事として、在学当時、口がすっぱくなるほど教えを受けました。

集団登校していましたが、雪が降ると、いつも上級生は足元を気付かい小さい下級生を背負って、家まで送って来てくれました。本当にありが



神保光一さん
92歳：小堤

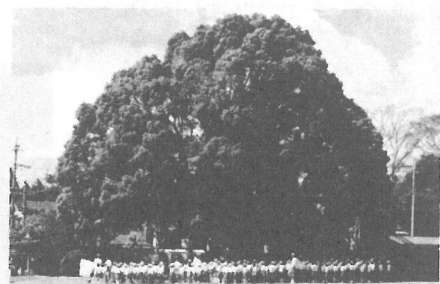
思いやりと
助け合い

たいことでした。

近所で病人など困ったことがあればお互い助け合ったものです。今思うと、このような思いやり、助け合いの心は「地域づくり」にもつながっている気がいたします。

新聞やテレビで耳にする子ども達の「いじめ」や「校内暴力」、当時教育を受けた人には、そういう事は絶対出来ない、考えられないことです。

教えを受けた安塚先生のお孫さんから贈られた色紙「和は、仲良くしなさい」という先生の意に通じるものがあります。人に迷惑をかけない、お互い助け合うという教育はいま、大総地区に伝統として受け継がれています。



シンボルのクスの木と共に学ぶ(大総小)

私達五年生は、大総小学校の百年をふりかえって劇をやりました。特に昭和の戦前戦後を中心に展開しました。私も劇をやって大総小学校のそのころの子どもになったような気持ちになりました。

会場のお客様も感げきして



大総小5年
木川絵美さん

風船に願いをこめて

大きな拍手を送ってくださったので本当にうれしくなりました。

最後に、校庭に出て、全校の児童とお客様でいっせいに風船をとばしました。青空に吸い込まれるようにとんで行きました。私は、心の中で、無事にお友達の手が届くことを祈りました。



大総小6年
吉岡尚美さん

くすの木のように元気な子に

私達の学校には、大きなくすの木があります。そのくすの木は、百年もの長い間、私たちの学校を見守ってきました。そして、今でも立派に校庭に根をはっています。

大総小学校は、今年で創立百周年を迎えました。その式典で、なつかしそうにくすの木をながめているお客様がいました。くすの木は、大総小のシンボルだと思えます。

くすの木は、雨が降っても風がふいても、いつもがっしりと根をはって、くじけたりへこたれたりしません。もしかしたら、くすの木は、丈夫で元気な子どもになってほしいと願っているのではないかなあと思います。